

人はみな、支えあつて生きている



明戸中学校3年 加藤 美穂

私は、十三年間生きてきたなかで、いじめに
あつたことは一度もない。しかし、今の世の中
にいじめはたえない。きっと私は、めぐまれて
いたのだらう。でも、そのために正直いじめら
れている人の気持ちはよくわからない。

一年生のころ、私は「ピアサポート」という
のを体験した。そのとき、目をつぶつてろう下
を十五メートルくらい歩いたあと、誰かとペア
になり、もう一人の人がサポートしてくれなが
ら歩くというのをやった。これを教えてくれた
先生によると、目をつぶった時はくらぐら何も見
えなくて不安で、誰かにサポートしてもらうと
安心するそう。実際、私も体験してみても、そ
うだった。これは、ちょうどいじめられている
人の気持ちと同じだそう。一人だと不安で誰
かが一緒にいてくれると、安心感がでてくるそ
うだ。そのため、いじめられている人を見たら
手をさしのべてほしいと言っていた。私は、そ
の講習を受けて、「誰かがいじめられていたら必
ず手をさしのべて、助けてあげたい」と思った。
ふと考えてでてくる疑問は、「そもそもいじ
めとは何なのか、なぜいじめをしてはいけない
のか」ということである。私は、この疑問につ
いて考えてみた。いじめとは、人の嫌がること
を言ったりやったりすること。これはすぐにわか
る。では、なぜいじめをしてはいけないのか。
今、世の中ではいじめによって自殺してしまう
人もいる。いじめがその人の人間としての権利
や幸せを奪っているのだ。誰にそんな権利が
あるのか。人間はみな平等であるのではないだ
ろうか。これは大きないじめの例だが、小さな
いじめもある。悪口、物を隠す。これは幸せな
ことをうばうことではないからしてもいいのか。い
や、違う。どんなに小さないじめでも心に傷が

できる。いじめている人も人間としての美しい
心がだんだん輝きを失っていく。だからいじめ
はしてはいけないのだ。私たち人間は、みな平
等なのだから。

いじめと直接関係があるのかはわからない
が、私がいつもつらくなったりしたときに聞い
ている曲の歌詞に、「いつだって僕ら、きつと誰
だって、悲しみや弱さ、いくつもひきつれて
たおれかかったって、ふみ出す力を、きつとそ
こには、泣いて自分の、笑顔が待っている。自分
を信じて」というのがある。みな、つらくなく
たり悲しくなったりするときはあるのだらう。
でも、そんな時は、楽しいことを考えればいい
のだ。それが私にとっては歌だ。人間が生きて
いく中で傷つけられたりしていくこともある。
そのとき、どうのりこえていくか、そこにこれ
からの自分の人生を変えていくかが隠されて
いるように思う。

世界中の人を見てみればたくさんの方がい
る。白いはだの人、黒いはだの人、五体満足の人
そうでない人。いちいちいじられたらきりがな
い。十人いたら十とおりの顔があり十とおりの
性格がある。百人いたら百とおりの顔があり百
とおりの性格がある。だからいじめもおきてし
まうのかもしれないが、もし、この世の中の人
が、みんな同じ顔でみんな同じ性格だったらど
うだらう。つまらなくなってしまうし、なにも
変わらなくなってしまう、めちゃくちゃになっ
てしまう。人はみんな一人一人が違うからいい
のだ。だからその個性を尊重しあっていかなけ
ればいけない。

私たちは生きていくなかで喜んで、怒って、
哀しんで、楽しんで。今の一秒、一秒を大切
に生きていついていく。だけど必ず誰かが自分を
想ってくれている。それを忘れてはいけない。
自分のためにも、自分を想ってくれている人
のためにも個性を尊重しあい生きていついて、幸
せな一秒をすごしていきたい。そのためにもこ
の世の中からいじめがなくなり、世界じゅうの
人が笑える時がくるといいなと思う。私は、こ
れから何十年と生きていくが、その中できりは
なすことのできない人の輪を大切にしていきたい。
この世の中からいじめがなくなる時をい
いながら。

夢 なかるべからず

ラグビーの先に見えた光



あら い 新井 さん
あき お 昭夫 さん

ノーサイドの先

生時代に出会いたかった。
そう思わせる魅力を持つ
教師がいる。

深谷中学校体育教諭・ラグ
ビー部顧問 新井昭夫。
彼が教師の道を選んだのは、

ラグビーを通して出会った教師
の影響が大きかった。

「お世話になった先生方に恩
返しをしたいから」

一流アスリートだった新井
が、教師の道を本格的に目指し
たのは、32歳の春だった。

譲葉の賦

④ 仁山

「なにも獲って食おうというわけ
じゃねえ、お主が儀八かと尋ねて
おるだけじゃ」その男の吐く息は
確かに酒臭くはあつた。しかし儀八
には、この男の眼に知性が宿ってい
ると感じられた。「確かに俺は儀八
だが、人に物を尋ねる時には、先に
名乗るのが筋じゃ！そう父が言う
ておつた。」精一杯の勇気を振り絞
り、言葉を返した。「氣に入つたぞ
小僧、それだけはつきりと物を言う
とはな。わしは血洗島の仁山とい
う者じゃ。聞くところによるとお主は
えらく書物を読むそうだな。」

仁山と名乗つたその男は、右手に
ぶら下げた瓢箪を肩に掛け、顎のあた
りの無精ひげを左手で擦りながら
「もし、もつと多くの書物を読みた
いと思うのなら、明日からわしの元
へ通うが良からう。」そう告げると
河原へと続く道を下りて行つた。
渋沢仁山、青洲渋沢栄一翁の祖父
の弟であり、熊谷の三浦無窮に儒学
を学んだこの人は、日夕酒を好み、
産を治めず、心の赴く所に身を寄せ、
氣が向けば釣り上げた魚をその川辺
で自ら料理して味わつたと伝えられ

桃井可堂伝

ている。しかし、その学識に至つて
は高遠、人格においては恬淡、実
一個の傑物であつた。この仁山の死
後、血洗島の地が尾高藍香を輩出し、
渋沢栄一を大成させたのは、仁山が
この地に学問の礎を築き、育てたこ
とが大きかつたと謂われている。

「多くの書物が読める」その想
を抑えることができず、儀八は翌朝
早々に家を出た。父に教えられた仁
山の居所に向かいながら、昨晩の父
の驚いた顔と、その後の動転振りが
思い起こされ、思わず笑みが漏れた。
程なくして仁山の居所の前に立つ
た儀八は首をか上げた「おうちよう
しつ？はて、これはどういう意味で
あるう。」思案を巡らせる儀八の背
後から「王長、なお自得のことし。
まあ学問を楽しむ処という程度の意
味じゃ」と応える仁山の声が聞こえ
た。「昨日は失礼いたしました。父
に話しましたところ、高名な仁山先
生にお声掛けをいただいたことに非
常に驚き、失礼の無い様にときつく
申し付かつて参りました。」
こうして儀八は、仁山の私塾であ
る「王長室」に通い始め、その人生
で初の師を得たのである。

人生を変えた何気ない選択

ラグビーとの出会いは、中
学生の時。明戸中学校に
入学し、選んだ部活動がラグ
ビーだった。夢中になっていた
サッカーが部活動になかつたの
で、「サッカーのキックが生か
せそう」という理由で、ラグビー
を選んだ。



「練習のための練習じゃない！」と本番
さながらの気合炸裂

高校では、キャプテンであり
*SOとして、チームを全国の
頂点へと導いた。大学時代には
日本代表合宿に召集され、社会
人になつても、強豪チームでラ
グビーを続けた。

現役を退き、社業に精励し
た。責任とやり甲斐のある仕事。
満足していなかつたわけではな
い。ただ、大学時代に思い描い
た夢―教師になる―が頭から離

れなかつたのだ。
愛すべき妻と子を守りなが
ら、満ち足りた仕事を捨て、夢
という名の旅に出た。

マライズムという名の俺流

「褒めるところは褒め、叱る
時はしつかり叱る」
そんな当り前のことが当たり前
前にできる教師を目指し、日々、
教師という仕事、そして生徒た
ちの心と向き合っている。
「教員である以上、異動はつ
きもの。学校独自の校風がある
中、その校風と調和を取りなが
ら、アライズムで、新しい風を
吹かせたい」
厳しい印象の裏にある温か
さ。頼り甲斐と優しさを合わせ
持つ新井の指導が、今日も深谷
中学校に吹き渡る。

夢七訓

- 夢なき者は理想なし
- 理想なき者は信念なし
- 信念なき者は計画なし
- 計画なき者は実行なし
- 実行なき者は成果なし
- 成果なき者は幸福なし
- ゆえに、幸福を求める者は
夢なかるべからず※

*SO(スタンドオフ)：ラグビーのポジションの一つ。試合をコントロールする司令塔。広い視野、的確な判断力、正確なパスやキックが要求される。
(本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています)

※高遠…志や思想などがけだかく、他に抜きん出ていること。
※恬淡…無欲であつさりしていること。物に執着せず心の安らかなこと。